

## 2018年度 洗足こども短期大学 高津区役所保育所等・地域連携共催

### 保育実技研修会が開催されました。

去る6月26日(火)に、本学シルバーマウンテンにおいて、保育実技研修会「楽器はお友達 part3 乳幼児の発達に即した楽器遊び～子どもが楽器と友達になるための実践編～」が開催されました。この研修会は、昨年度行われた同テーマの理論と実践編から、より子どもの発達段階に合わせた「明日の保育にすぐに使える実践編」として開催されたものです。当日は、保育者、高津区役所担当者、本学の在校生・教員を合わせ、総勢85名が集う研修会となりました。

講師は、昨年度に引き続き、本学の教授で神奈川県保育士養成施設協会主催の「保育士を志す学生の集い」において「日本の歌・世界の歌」を演じるなど声楽と音楽を通して川崎市や高津区との地域連携に取り組んでいる秋山徹先生と、日本ジャック＝ダルクローズ協会会員、ダルクローズ・リトミックの国際免許資格を持ち、保育現場での乳幼児のリトミックや親子リトミックのご講演を開いている谷上公子先生でした。

本学幼児教育保育科 落合俊文学長より本学と高津区との地域連携についての挨拶の後、秋山先生から、「歌う素晴らしさと歌唱・楽器の基礎知識」として、普段保育現場で活用している楽器の特色に合わせた鳴らし方、子どもの年齢に合わせた歌唱指導や保育者の発声練習法などについて実演を交えての講義がありました。「タンバリンは真ん中を叩くのと端を叩くのでは音の高さが違う」、「鈴の持ち手の色によって音が違う」、「トライアングルのリズム打ちの工夫」、など、参加者が新たな発見をするような楽器の知識や奏法の紹介もあり、普段何気なく触れている楽器にも違う視点での興味湧く内容でした。また、子どもの音域についてや保育者の裏声の使い方、それを鍛えるために普段からできる発声練習についてもお話がありました。

谷上先生からは、子どもの発達段階に合わせた音遊び、楽器遊び、合奏への指導法について、実際に参加者が動いて音楽を感じる体験型の講義がありました。ウォーミングアップとしてスタインウェイのフルコンサートグランドピアノの音色に乗せて参加者が感じたままにスキップや手拍子を楽しんだのち、0～2歳児が音楽に触れる入口として、ボールを使った「音を感じる」「遊びながらリズムを感じる」実践が行われました。また、3～5歳児が楽器に親しみながら合奏を経験していく過程について、「赤ちゃんをだっこするように優しく楽器を運びましょう」、「大きなお月様のように手をまわしてタンバリンを打ちましょう」など、子どものイメージを膨らましながらか楽器に親しむことや、音のないところで楽器を打つことによって「聴く」という態度が身に付いていく指導法が実演されました。さらに、参加者がお月様役のタンバリン、星役のカスタネットのリズム打ちを行うのに合わせて、本学学生がトーンチャイムでメロデーを入れ、『こぎつね』の合奏を仕上げていきました。





最後は、闘牛士の衣装を纏った秋山先生の美声による『トレロ カモミロ』が披露され、参加者全員が「γ × × γ × ×」の手拍子と「オレ！」の掛け声を入れて大合唱、拍手喝采のなか、講演は終了となりました。



高津区役所地域みまもり支援センター保育所等・地域連携 高橋すみ子担当課長より本日の研修会のまとめをしていただき閉会となりました。

今研修会が参加者のみなさまの明日からの保育や学習に活かされることを心よりお祈り申し上げます。

洗足こども短期大学 保育・子育て研究所 並木真理子